

株主の皆様へ



取締役社長

田中 宏

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに「第90期事業報告書」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、構造的なデフレ経済から脱却できず、引き続き金融システム不安、更には米国経済の減速、イラク問題が加わり、景気の先行きに対しての不透明感が一層強くなる中で、今後の展望が開けないまま推移いたしました。民間設備投資の本格的な回復はみられず、企業の在庫圧縮、個人消費の低迷といった経済の減速要因は当面解消ができない状況となっております。

化学工業におきましては、中国をはじめとするアジア向けの輸出は伸長いたしました。中東情勢の影響を受けた原油価格の上昇により原燃料価格が急騰しているにもかかわらず、これらの製造コスト増を容易に製品価格へ転嫁できないなど、依然厳しい環境下にあります。

当社およびグループ各社は、このような状況のもとで、現在推進中の「新中期経営計画（中計DC）」に沿って高収益体質への転換を目指し、重点分野である樹脂製品、高機能材、医薬・農薬分野に注力し、ニッチでもグローバルに通用するファイン・スペシャリティ製品の拡大に取り組んでおり、当年度は、「選択と集中」の観点から、重点分野に注力するべく塩化ビニル樹脂事業、プラスチック添加剤

事業、およびラテックス事業といったコモディティ事業からの撤退を決定いたしました。

この結果、当期の連結売上高は前期に比して27億9千万円減少し、1,376億4千7百万円（前期比2.0%減）ではありますが、営業利益は前期に比して19億9千9百万円増加し82億8千9百万円（前期比31.8%増）、経常利益は前期に比して28億4千6百万円増加し74億7千3百万円（前期比61.5%増）となり、いずれも前期に比して大幅な増益となりました。

当期純利益は、当社およびグループ各社保有の金融機関等上場株式の著しい時価の下落により特別損失として株式評価損を計上した結果、14億5千3百万円となりました。なお、当期は中間配当につきましては見送らせていただいておりますが、期末配当金として前期と同じ1株につき6円とさせていただきます。

今後のわが国の経済見通しにつきましては、国際情勢が流動化し、景気の更なる悪化が懸念される中で、景気の底割れの危機を回避するために、デフレ脱却の施策を講じるとともに産業再生機構等の活用により金融システム不安を解消し、早期に産業、金融の再生を図ることが強く求められております。

化学工業におきましても、原油高に起因する原燃料の高騰の長期化による業績の低下、米国景気の悪化によるアジアを含む世界経済低迷の懸念など依然厳しい環境下にあります。

このような状況のもとで、当社は平成15年度について、過年度に実施した事業再構築の諸施策に引き続き「既存事業の新たな展開」および「新規事業の早期立ち上げ」に積極的に取り組み、その目標を着実に達成する所存であります。その重点施策として、グローバルな事業展開による業容の拡大、適正な価格で流通する商品価値の確立、視点をグローバルにもち、ニッチな分野でも世界一を目指す研究開発、連結経営の一層の強化、レスポンシブル・ケア環境保護、安全等に関する自主的管理活動の実施宣言に沿った地球環境の保護および安全と健康の確保を掲げ、これらの着実な遂行を通じて社会的に評価される呉羽グループを目指してまいります。

なお、本年2月にモディファイヤー事業に関連して独占禁止法違反の嫌疑により公正取引委員会の立入調査を受けました。また、米国においても独禁当局による調査と、関連する訴訟が提起されました。まだ調査の段階ですが、従来から法令遵守を全社的に心がけていたにもかかわらず、このような嫌疑を受けたこと自体誠に遺憾であり、調査には全面的に協力するとともに、全役員および社員に改めて法令遵守の徹底を図り、コンプライアンス委員会を設置いたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月

取締役社長 田中 宏

セグメント別営業の概況

機能製品事業

PPS樹脂、ふっ化ビニリデン樹脂等の高機能樹脂製品は、半導体等電気・電子素材用途の需要の回復により、前期に比べ売上げ、営業利益ともに大幅な増加となりました。

炭素製品のうち、球状活性炭につきましては前年に引き続き輸出の好調により売上げ、営業利益ともに前期に比べ増加いたしました。炭素繊維は光ファイバー、熱処理用断熱材用途の需要の低迷に加え、価格の低下により営業利益は悪化いたしました。

光学製品は、カメラ付き携帯電話用途の光学フィルターの売上げが増加し、前期に比し売上げ、営業利益ともに増加いたしました。

なお、当社およびグループ会社の事業再構築の一環として、プラスチック添加剤事業は1月に営業権を譲渡いたしました。また、ラテックス事業は営業権を譲渡し3月末をもって事業から撤退いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は317億5千1百万円となり、営業利益はプラスチック添加剤事業譲渡収益もあり、前期に比して26億1千8百万円増の40億3千5百万円(前期比184.9%増)となりました。

化学製品事業

工業薬品分野は、ベンゼン等の原料価格の高騰がありましたが、パラジクロルベンゼン等の拡販により前期に比べ

売上げ、営業利益ともに改善いたしました。

付加価値の高い医薬品分野では慢性腎不全用剤「クレメジン」は前年に引き続き売上げが好調に推移し、抗悪性腫瘍剤「クレスチン」についても前期に比し売上げが増加し、この分野では売上げ、営業利益ともに増加いたしました。

農薬分野では、イモチ病用農薬「ラブサイド」は輸出の不振により売上げが減少いたしました。農業用殺菌剤「メトコナゾール」は堅調に推移した結果、本分野ではほぼ前期並みの営業利益を維持いたしました。

塩化ビニル樹脂は、1月より営業権を譲渡して受託生産となりました。それにより採算は改善されましたが、上半期の原料高と市況の低迷による採算悪化により、前期に比べ営業損失は拡大いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は311億2百万円となり、営業利益は前期に比して7百万円減の14億5千9百万円(前期比0.5%減)となりました。

樹脂製品事業

業務用食品包装材分野では、国内における売上げは横ばいに推移いたしました。欧州においては新規開発製品の売上げが好調に推移し、営業利益は増加いたしました。

中国向けの塩化ビニリデン・コンパウンドについては、中国市場での競争激化により販売価格、数量ともに減少いたしました。原価低減の施策を講じた結

果、営業利益は改善いたしました。

金属蒸着フィルム等の電気・電子関連素材については、需要の回復に伴い、売上げ、営業利益ともに改善いたしました。

コンシューマー・グッズ分野では、市場のデフレ圧力が強い中で、家庭用食品包装材「NEWクレラップ」は市場価格の適正化に注力いたしましたが、売上げ、営業利益ともに前期に比べ大幅に減少いたしました。釣糸「シーガー」につきましては、市場が低迷している中で積極的な拡販を図り前期並みの売上げを維持いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は509億5千万円となり、営業利益は前期に比して8億1千9百万円減の17億7千8百万円(前期比31.5%減)となりました。

その他事業

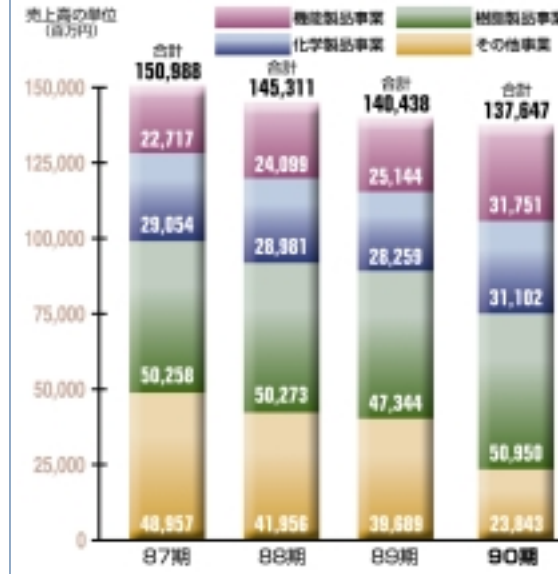
建設関連分野は、採算性を重視した工事受注により売上げは前期を下回りましたが、営業利益は大幅に増加いたしました。

環境関連分野は、売上げは前期の大型焼却炉工事の完成に伴い減少いたしました。営業利益は前期並みを維持いたしました。

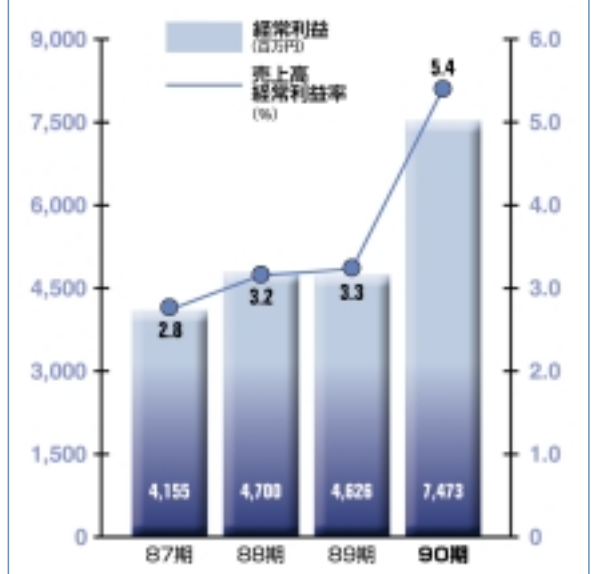
運輸・倉庫関連分野は、同業他社との競争激化に対し採算改善のための事業見直しを行った結果、営業利益は前期並みを維持いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は238億4千3百万円となり、営業利益は前期に比して3億1千4百万円増の12億3千9百万円(前期比33.9%増)となりました。

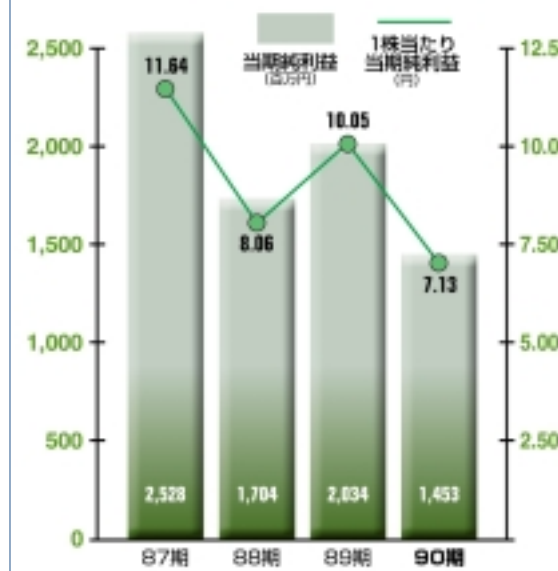
セグメント別売上高の推移



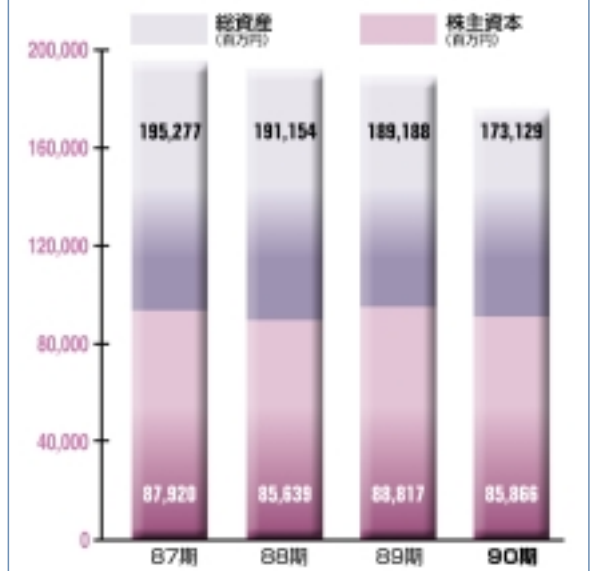
経常利益 / 売上高経常利益率



当期純利益 / 1株当たり当期純利益



総資産 / 株主資本



連結貸借対照表

| 資産の部 | | 負債の部 | | | | | |
|-------|------------------------------|------------------------------|----------------|------------------------------|------------------------------|--------|--------|
| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月31日現在 | 前期(第89期) 平成14年 3月31日現在 | 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月31日現在 | 前期(第89期) 平成14年 3月31日現在 | | |
| 流動資産 | 現金預金 | 7,421 | 6,851 | 流動負債 | 支払手形および買掛金 | 18,842 | 18,287 |
| | 受取手形および売掛金 | 40,247 | 43,122 | | 短期借入金 | 33,648 | 42,029 |
| | 有価証券 | 506 | 5 | | 未払費用 | 3,849 | 4,429 |
| | 棚卸資産 | 20,352 | 20,105 | | 賞与引当金 | 1,368 | 1,342 |
| | 繰延税金資産 | 869 | 959 | | その他 | 8,495 | 8,720 |
| | その他 | 3,056 | 2,807 | | 流動負債計 | 66,202 | 74,807 |
| 固定資産 | 流動資産計 | 72,451 | 73,849 | 固定負債 | 長期借入金 | 13,551 | 16,294 |
| | 有形固定資産 | | | | 退職給付引当金 | 2,670 | 2,832 |
| | 建物および構築物 | 26,828 | 26,292 | | 繰延税金負債 | 2,017 | 2,917 |
| | 機械装置および運搬具 | 22,053 | 24,252 | | その他 | 1,432 | 1,624 |
| | その他 | 18,310 | 19,056 | | 固定負債計 | 19,670 | 23,667 |
| | 有形固定資産計 | 67,191 | 69,600 | 3負債合計 | 85,873 | 98,475 | |
| | 無形固定資産計 | 2,486 | 2,483 | 少数株主持分 | 1,390 | 1,896 | |
| | 投資等 | | | 資本の部 | | | |
| | 投資有価証券 | 22,348 | 32,548 | 資本金 | 12,460 | 12,460 | |
| | 繰延税金資産 | 1,253 | 1,232 | 資本剰余金 | 9,710 | 9,701 | |
| その他 | 7,398 | 9,474 | 利益剰余金 | 60,562 | 63,315 | | |
| 投資等計 | 30,999 | 43,254 | その他有価証券評価差額金 | 3,771 | 5,243 | | |
| 固定資産計 | 100,678 | 115,339 | 為替換算調整勘定 | 409 | 436 | | |
| 資産合計 | 173,129 | 189,188 | 自己株式 | 228 | 1,467 | | |
| | | | 資本合計 | 85,866 | 88,817 | | |
| | | | 負債・少数株主持分・資本合計 | 173,129 | 189,188 | | |

(金額 百万円)

POINT

有形固定資産

有形固定資産は、プラスチック添加剤事業撤退等により、前期に比べ24億9百万円減少いたしました。

POINT

投資有価証券

投資有価証券は、プラスチック添加剤事業撤退に伴い131億4千3百万円減少した他、上場株式の株価の下落による減損処理等により、前期に比べ併せて102億円減少いたしました。

POINT

負債合計

有利子負債は、111億2千5百万円減少して472億円となり、負債総額は前期に比べ126億2百万円減少いたしました。

POINT

経常利益

売上高は前期に比べ27億9千万円の減収でしたが、経常利益は連結子会社の採算改善が寄与し前期に比べ60%を超える増益の74億7千3百万円となりました。

連結損益計算書

| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月期 | 前期(第89期) 平成14年 3月期 |
|---------------|--------------------------|--------------------------|
| 売上高 | 137,647 | 140,438 |
| 売上原価 | 102,010 | 107,001 |
| 販売費および一般管理費 | 27,347 | 27,146 |
| 営業利益 | 8,289 | 6,290 |
| 営業外収益 | 1,180 | 1,104 |
| 営業外費用 | 1,995 | 2,767 |
| 経常利益 | 7,473 | 4,626 |
| 特別利益 | 4,290 | 1,156 |
| 特別損失 | 8,288 | 3,066 |
| 税金等調整前当期純利益 | 3,475 | 2,716 |
| 法人税、住民税および事業税 | 1,320 | 1,505 |
| 法人税等調整額(減算) | 452 | 687 |
| 少数株主損益(減算) | 249 | 136 |
| 当期純利益 | 1,453 | 2,034 |

(金額 百万円)

POINT

当期純利益

当期純利益は、当社およびグループ各社保有の金融機関等上場株式の著しい株価の下落により特別損失として株式評価損を計上した結果、前期に比べ28%減益の14億5千3百万円となりました。

POINT

営業活動によるキャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、税前利益35億円、減価償却費88億円に加え売上債権の回収短縮に努めた結果、前期に比べ52億2千万円増加いたしました。

POINT

投資活動によるキャッシュフロー

投資活動によるキャッシュフローは、固定資産の取得による支出が約110億円ありましたが、プラスチック添加剤事業売却による収入があり、前期に比べ42億2千4百万円減少いたしました。

POINT

財務活動によるキャッシュフロー

財務活動によるキャッシュフローは、有利子負債の圧縮および自己株式取得等により、前期に比べ26億5千1百万円減少いたしました。

連結剰余金計算書

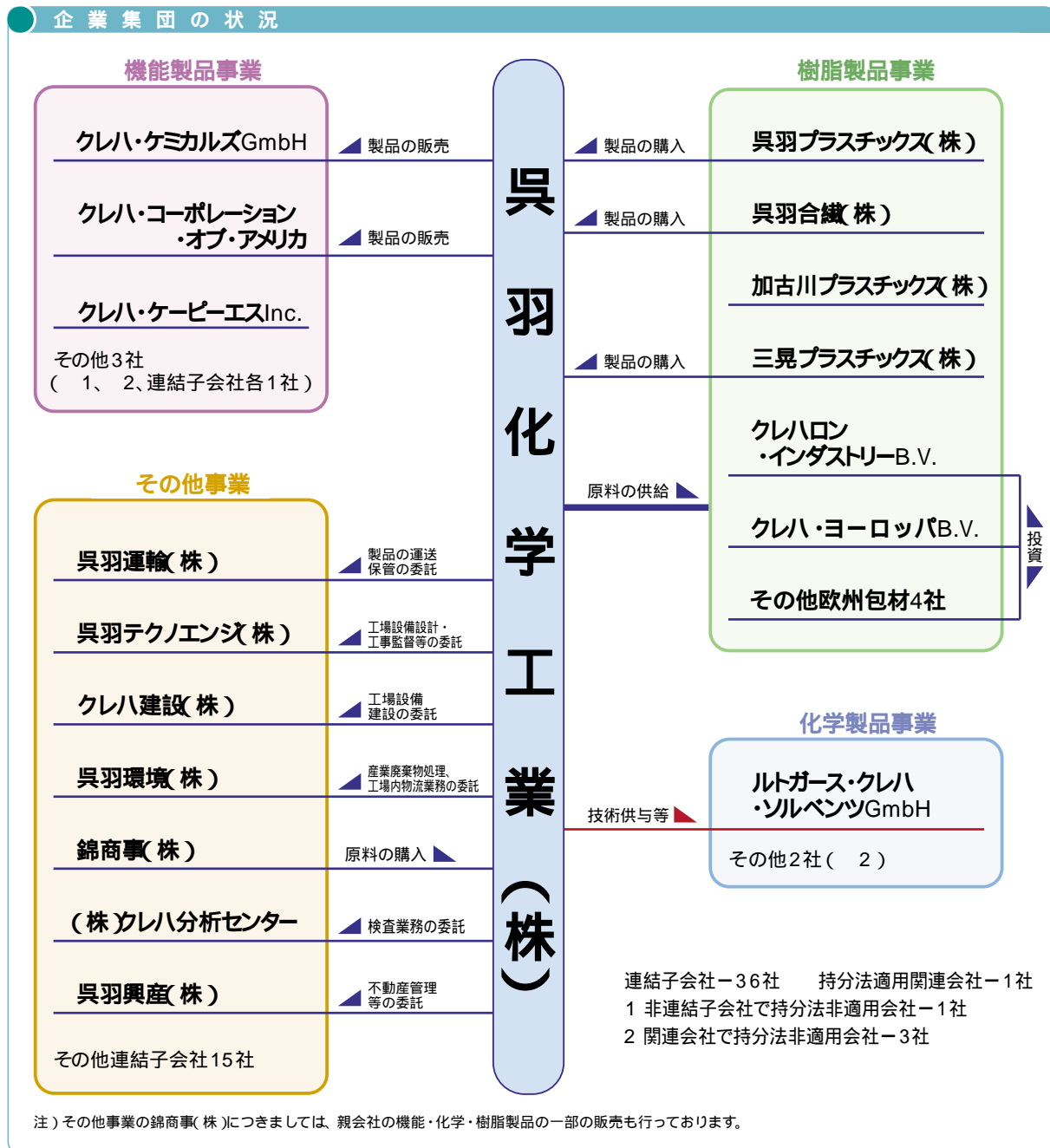
| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月期 | 前期(第89期) 平成14年 3月期 |
|-----------|--------------------------|--------------------------|
| (資本剰余金の部) | | |
| 資本剰余金期首残高 | 9,701 | 9,701 |
| 資本剰余金増加高 | 8 | |
| 資本剰余金期末残高 | 9,710 | 9,701 |
| (利益剰余金の部) | | |
| 利益剰余金期首残高 | 63,315 | 65,033 |
| 当期純利益 | 1,453 | 2,034 |
| 利益剰余金減少高 | | |
| 配当金 | 1,191 | 1,245 |
| 役員賞与 | 56 | 54 |
| 自己株式消却額 | 2,959 | 2,452 |
| 利益剰余金期末残高 | 60,562 | 63,315 |

(金額 百万円)

連結キャッシュフロー計算書

| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月期 | 前期(第89期) 平成14年 3月期 |
|------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 営業活動による キャッシュフロー | 15,732 | 10,512 |
| 投資活動による キャッシュフロー | 2,909 | 7,133 |
| 財務活動による キャッシュフロー | 12,280 | 9,629 |
| 現金および現金同等物に 係わる換算差額 | 27 | 41 |
| 現金および現金同等物の 増減額 | 570 | 6,208 |
| 現金および現金同等物の 期首残高 | 6,851 | 13,060 |
| 現金および現金同等物の 期末残高 | 7,421 | 6,851 |

(金額 百万円)



当社およびグループ各社は、昨年度は事業の「選択と集中」の観点から、コモディティ事業から撤退し、事業の集中による飛躍を図ることを決定いたしました。平成15年度については、その事業展開のために以下の具体的施策を行い新たな飛躍を図る所存であります。

機能製品事業:

収益最大化のためのコスト削減と生産の効率化
 既存製品の着実な収益確保・積極的な新規用途/商品開発・グローバルな視点を持った市場開拓

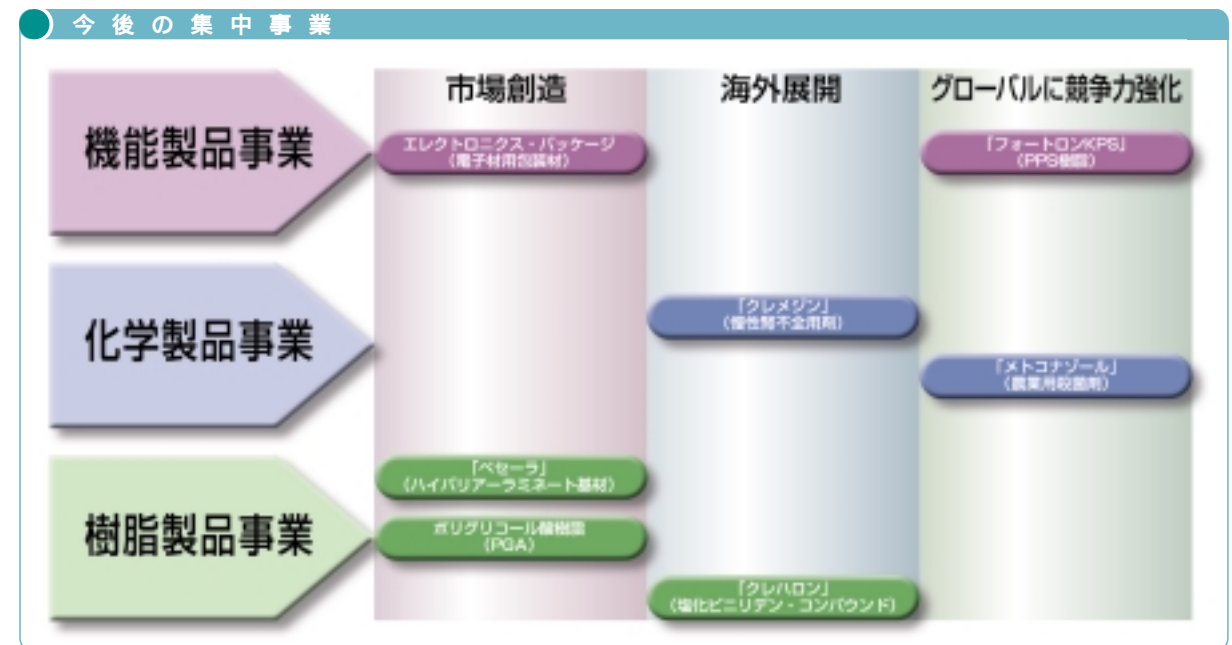
化学製品事業:

工業薬品分野の採算改善と利益商品の拡販
 医薬品分野の売上げおよび営業利益の拡大、次期製品開発強化

樹脂製品事業:

バリアー機能性包装材料の拡販による利益拡大、市場変化に対応した事業展開
 コンシューマー・グッズ分野の安定した利益構造の構築、新商品開発体制の強化

以上の具体的施策に基づく通期の連結業績見通しは、売上高は1,430億円(前期比3.9%増) 経常利益は、90億円(前期比20.4%増) 当期利益については40億円(前期比175.3%増)を見込んでおります。



貸借対照表

| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
|------------|------------------------------|------------------------------|-------|------------------------------|------------------------------|
| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月31日現在 | 前期(第89期) 平成14年 3月31日現在 | 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月31日現在 | 前期(第89期) 平成14年 3月31日現在 |
| 現金預金 | 3,600 | 4,355 | 買掛金 | 8,210 | 8,531 |
| 受取手形および売掛金 | 26,732 | 27,590 | 借入金 | 22,267 | 24,989 |
| 有価証券 | 500 | | その他 | 9,548 | 8,782 |
| 棚卸資産 | 13,015 | 12,294 | 流動負債計 | 40,025 | 42,302 |
| 繰延税金資産 | 631 | 677 | 長期借入金 | 10,639 | 12,348 |
| その他 | 8,547 | 7,005 | その他 | 2,860 | 4,023 |
| 流動資産計 | 53,025 | 51,921 | 固定負債計 | 13,499 | 16,371 |
| 有形固定資産 | | | 3負債合計 | 53,524 | 58,674 |
| 建物 | 17,295 | 15,722 | | | |
| 機械および装置 | 17,244 | 17,175 | | | |
| 土地 | 7,461 | 7,743 | | | |
| その他 | 3,924 | 3,687 | | | |
| 有形固定資産計 | 45,924 | 44,327 | | | |
| 無形固定資産 | 2,322 | 2,250 | | | |
| 投資等 | | | | | |
| 投資有価証券 | 20,442 | 26,337 | | | |
| 関係会社株式 | 7,721 | 11,537 | | | |
| 出資金 | 901 | 833 | | | |
| その他 | 6,672 | 7,853 | | | |
| 投資等計 | 35,736 | 46,560 | | | |
| 固定資産計 | 83,983 | 93,138 | | | |
| 資産合計 | 137,008 | 145,059 | | | |
| | 金額(百万円) | | | 金額(百万円) | |

有形固定資産減価償却累計額は、当期(90期)115,922百万円、前期(89期)112,570百万円となります。

POINT

有形固定資産

有形固定資産は、クロルベンゼン類製造設備一式購入の他に、ポリグリコール酸樹脂(PGA)パイロット・プラント建設工事等により前期に比べ15億9千7百万円増加いたしました。

POINT

投資有価証券

投資有価証券は、株式の売却並びに上場株式の株価の下落による減損処理等により、前期に比べ58億9千5百万円減少いたしました。

POINT

負債合計

有利子負債は、44億3千1百万円減少し、329億7百万円となり、負債総額は前期に比べ51億5千万円減少いたしました。

POINT

経常利益

売上高はほぼ前期並みの840億3千6百万円ですが、高付加価値品の売上げ増加と不採算商品の減少および事業撤退、全社固定費の削減等により経常利益は前期に比べ23%増益の53億2千8百万円となりました。

損益計算書

| 科目 | 当期(第90期) 平成15年 3月期 | 前期(第89期) 平成14年 3月期 |
|---------------|--------------------------|--------------------------|
| 経常損益の部 | | |
| 営業損益の部 | | |
| 売上高 | 84,036 | 84,026 |
| 売上原価 | 56,830 | 57,331 |
| 販売費および一般管理費 | 22,492 | 21,896 |
| 営業利益 | 4,713 | 4,797 |
| 営業外損益の部 | | |
| 営業外収益 | 1,928 | 1,316 |
| 営業外費用 | 1,312 | 1,798 |
| 経常利益 | 5,328 | 4,316 |
| 特別損益の部 | | |
| 特別利益 | 3,742 | 826 |
| 特別損失 | 6,884 | 2,778 |
| 税引前当期利益 | 2,187 | 2,364 |
| 法人税、住民税および事業税 | 450 | 1,115 |
| 法人税等調整額 | 385 | 207 |
| 当期利益 | 1,352 | 1,456 |
| 前期繰越利益 | 15,929 | 8,157 |
| 利益による自己株式消却額 | 2,959 | 2,452 |
| 当期末処分利益 | 14,322 | 7,161 |
| | 金額(百万円) | |

利益処分

| | 当期(第90期) 平成15年 3月期 | 前期(第89期) 平成14年 3月期 |
|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 当期末処分利益 | 14,322 | 7,161 |
| 海外投資等損失準備金取崩額 | 0 | 0 |
| 別途積立金取崩額 | — | 10,000 |
| 合計 | 14,322 | 17,161 |
| これを次のとおり処分いたします 利益配当金(1株につき6円) | 1,166 | 1,197 |
| 取締役賞与金 | 35 | 35 |
| 合計 | 1,201 | 1,232 |
| 次期繰越利益 | 13,120 | 15,929 |
| | 金額(百万円) | |



キッチンさんレンジ容器シリーズに新商品
電子レンジで簡単調理

家庭用品シリーズ「キッチンさん」の「レンジ容器シリーズ」に、電子レンジで簡単に調理ができる2アイテムが新たに加わりました。

レンジでつくるスパゲッティ 1~2人分のパスタが簡単にゆでられる容器です。容器に水、塩、パスタを入れて加熱するだけでおいしくゆで上がります。

レンジでつくる温野菜 ゆで野菜、料理の下ごしらえがスピーディーにできる、ザル付き二重構造の容器です。蒸し器と同じ原理でパサつき、ベトつきなく仕上がります。またゆでるよりもビタミン残存率が高くヘルシーです。

ぜひ一度お試しください!!

なんつうわい う ほう
「南通匯羽豊新材料有限公司」
設立に向け合弁契約書に調印

平成15年2月15日、当社、河南双匯投資發展股份有限公司、豊田通商株式会社の3社は中国江蘇省南通市において、塩化ビニリデンレジンをコンパウンド現地生産販売会社の設立を目的とする合弁契約書に調印いたしました。合弁会社の名称は「南通匯羽豊新材料有限公司」で、南通市に平成17年に完成予定の現地工場は、レトルト・ソーセージ用フィルムの原料となる塩化ビニリデンレジンをコンパウンドを年間1万t製造する能力を持ちます。中国では経済発展に伴い、今後レトルト・ソーセージの消費量が毎年10%程度伸びるといわれており、現地工場は、初年度からフル生産で稼働すると見込まれています。



クレメジン韓国へ進出 ライセンス契約調印



平成14年10月10日、クレメジンの韓国における開発・販売権を韓国の CJ Corp 社に許諾するライセンス契約を締結いたしました。クレメジンは当社が生産、三共株式会社が販売している慢性腎不全用剤で、国内で10数年の販売実績を持ち、多くの患者さんの治療に寄与しており、世界展開を視野に入れて平成13年秋から米国において臨床試験を開始しております。今後、海外での開発・販売が実現すれば、わが国のみならず世界の腎不全患者さんにとり福音となりうるものと確信しております。

ポローニャ歌劇場日本公演広告
イベント部門優秀賞を受賞

学術・文化の振興に対する支援活動、いわゆるメセナ活動のひとつとして特別協賛した、呉羽化学スペシャルオペラ「ポローニャ歌劇場日本公演」(平成14年5月29日~6月12日)が、第32回フジサンケイグループ広告大賞のイベント部門優秀賞を受賞いたしました。本賞はフジサンケイグループのテレビ、ラジオ、新聞、雑誌やイベントに広告出稿された中から、特に優れた内容や企画の広告主に対して贈られる歴史と権威のある賞です。関係者一同今回の受賞を励みに、今後も好感度の高い広告宣伝活動を目指してまいります。



会社の概要

商号 呉羽化学工業株式会社
 本店 東京都中央区日本橋堀留町一丁目9番11号
 設立 昭和19年6月21日
 資本金 12,460,209,133円
 従業員数 1,476名
 ホームページ <http://www.kureha.co.jp/>

取締役および監査役 (平成15年6月27日現在)

| | |
|--------------------|---------|
| 取締役 会長 (代表取締役) | 天 野 宏 |
| 取締役 社長 (代表取締役) | 田 中 宏 |
| 取締役 副社長 (代表取締役) | 加 治 久 継 |
| 専務取締役 (代表取締役) | 内 山 正 樹 |
| 常務取締役 | 富 澤 藤 利 |
| 取締役 | 平 松 義 行 |
| 取締役 | 舟 木 竹 知 |
| 取締役 | 岡 本 恒 夫 |
| 取締役 | 藤 井 雅 彦 |
| 取締役 | 鈴 木 直 哉 |
| 取締役 | 萩 野 弘 二 |
| 取締役 | 新 井 邦 夫 |
| 取締役 | 重 田 昌 友 |
| 取締役 | 岩 崎 隆 夫 |
| 監査役(常勤) | 高 岡 龍 一 |
| 監査役(常勤) | 藤 原 一 作 |
| 監査役 | 木 村 和 俊 |
| 監査役 | 漆 原 末 男 |

事業所 (平成15年4月1日現在)

支店 大阪支店
 営業所 名古屋営業所、福岡営業所、札幌営業所、
 仙台営業所、いわき営業所(福島県いわき市)
 工場 錦工場(福島県いわき市)
 研究所 生物医学研究所(東京都新宿区)
 錦総合研究所(福島県いわき市)
 包装材料研究所(茨城県新治郡)

営業品目

| | | |
|------|--|--|
| 機能製品 | 機能樹脂 PPS樹脂 ふっ化ビニリデン樹脂 制電樹脂 機能性コンパウンド 光学材料 | 炭素製品 炭素繊維 球状活性炭 特殊炭素材料 |
| | 無機薬品 か性ソーダ 塩酸 液体塩素 次亜塩素酸ソーダ 有機薬品 モノクロルベンゼン パラジクロルベンゼン オルソジクロルベンゼン 2,6ジクロルトルエン | 医薬品 クレスチン クレメジン 動物用医薬品 コバルジン 農薬 ラブサイト DDVP メトコナゾール イブコナゾール 農材 粒状培土 園芸培土 |
| 化学製品 | 食品包装材 塩化ビニリデンフィルム 塩化ビニリデン・コンパウンド 熱収縮多層フィルム 非収縮多層フィルム 多層ボトル ハイバリアーラミネート基材 | 家庭用品 NEWクレラップ 流し台用水切りゴミ袋 掃除機用紙パック 合成繊維 ふっ化ビニリデン釣糸 芝工事 人工芝および敷設工事 天然芝生造成工事 包装機械 自動充填結紮機 |
| 樹脂製品 | | |

株式の状況

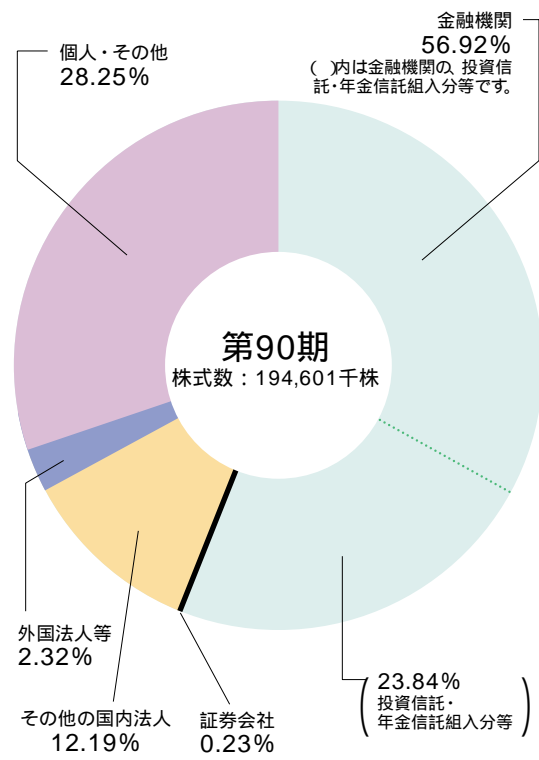
会社が発行する株式の総数 613,000,000株

発行済株式の総数 194,601,909株

(注)会社が発行する株式の総数および発行済株式の総数は、当期中に利益による自己株式の消却をしたことにより、前期末に比べそれぞれ8,000,000株減少いたしました。

株 主 数 24,656名

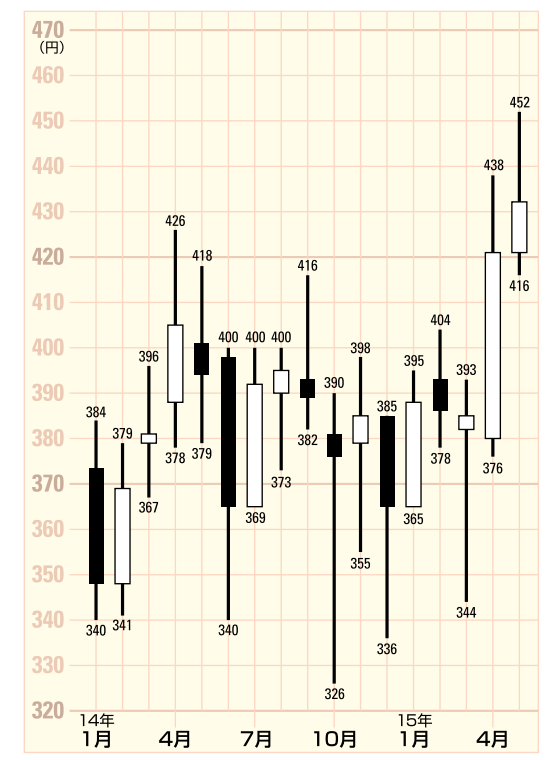
株式の所有者別構成比



大株主の状況

| 株主名 | 所有株式数 (千株) | 議決権比率 (%) |
|-------------------------------|---------------|--------------|
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 17,206 | 8.92 |
| 安田生命保険相互会社 | 13,746 | 7.12 |
| 東京海上火災保険株式会社 | 13,368 | 6.93 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 9,514 | 4.93 |
| 株式会社りそな銀行 | 6,738 | 3.49 |
| 三共株式会社 | 5,830 | 3.02 |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 5,679 | 2.94 |
| 株式会社あおぞら銀行 | 4,922 | 2.55 |
| 丸紅株式会社 | 4,462 | 2.31 |
| 株式会社損害保険ジャパン | 4,161 | 2.15 |

株式の状況



KUREHA

株主メモ


| | |
|-----------------------|--|
| 決算期 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 利益配当金支払 株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金を支払う 場合の株主確定日 | 9月30日 |
| 公告掲載新聞名 | 日本経済新聞 |
| 名義書換代理人 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 郵便物送付先 電話お問い合わせ先 | 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5213-5213(代表) |
| 同 取 次 所 | みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店 |

決算公告のホームページのご案内

なお、当社の決算公告は、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ(<http://www.kureha.co.jp>)に掲載しておりますので、こちらでもご覧いただけます。

第90期事業報告書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

 呉羽化学工業株式会社